

特集

やさしさとぬくもりを

飼い主のいない猫

野良猫は人間側の問題



野良猫も命あるもの

私たちの日々の生活の中で、いつも身近にいる野良猫たち……どこの街に行っても、飢えや過酷な環境に耐えている猫を見かけ、しっぽの会にも毎日のように、『引越して飼えなくなった、子猫を拾った、近所に野良猫がいるので何とかしたい』などの問い合わせが相次いでいます。小さくても命あるもの……野良猫と共生していくにはどうしたらいいのでしょうか。

飼い主側の問題

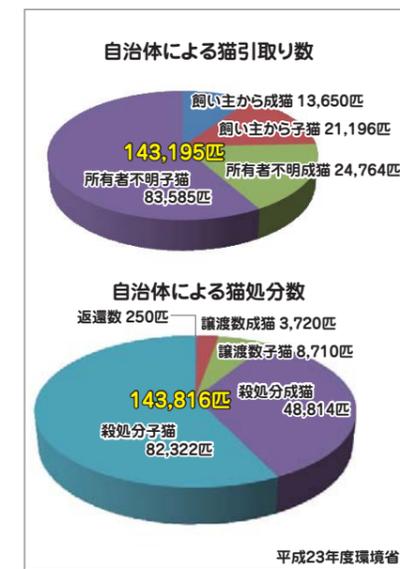
飼い猫であっても、『飼い主の高齢、病気、引越し、経済的な理由、動物の高齢、病気』を理由に捨てられる猫も多くいます。飼い主の放棄理由で最も多いのが引越ですが、経済的な理由を伴っている場合も多く、一戸建てから集合住宅や老人介護施設に入居するなど、転居先では動物の飼養が禁止されているというケースです。また、猫の不妊・去勢をしていないばかりに、飼いきれないほど増やし、あげくに保健所に捨てる飼い主もいます。また、近所から苦情がくるのも、猫に問題があるのではなく、マナーやモラルのない飼い方をしていたり、もとはと言えば人間の問題なのです。

※改正後の動物愛護管理法は、動物取扱業者から引取りを求められた場合の他、終生飼養の趣旨に反する場合には、自治体は引取りを拒否できるようになりました。

捨てられた猫の悲惨な結末

ペットフード協会の平成24年度全国犬猫飼育実態調査によると、国民の約3分の1が動物を飼養しており、平均の飼育頭数は1.5匹。また、近年は高齢層でペットニーズの強さが見えています。このような状況から、国、地方公共団体等は適正飼養を推進するための様々な取組を行っています。しかし、依然として遺棄・虐待等の問題が起きていて、『病気になった・経済的に苦しい・アレルギーになった』などの理由で動物を捨てる人が多くいます。捨てられた猫の行く末は、『動物を嫌う人からの虐待、行政殺処分、餓死や衰弱死、凍死、交通事故』、北海道ではあまり聞くことはありませんが、『実験動物にされる、三味線の皮にされる』など、そのほとんどが悲惨な最期を迎えます。飼い主には動物に対する愛情と責任はもちろん、社会に対する責任も伴います。人生にはさまざまな出来事がありますが、『最期まで飼う自信がない』など、先々、困難が予想される人は、飼わないという選択も動物への愛情です。

猫の殺処分



平成23年度、全国では131,136匹の猫が、私たちの住む北海道でも、4,332匹の猫が殺処分されています。自治体に収容された猫のうち、所有者不明の猫が全体の7割以上を占め、そのうち8割が生まれたばかりの子猫です。譲渡される猫が年々増えているとはいえ、自治体に持ち込まれる猫があまりに多く、一方、譲受を希望する人は限られているため、猫が殺処分される割合は全国で92%、北海道では68%にも及びます。また、猫の譲渡を積極的に行っていない自治体もあり、収容された猫の多くが殺処分されています。年間13万匹以上の猫の殺処分を減らすには、猫に不妊・去勢手術を施し、生まれて捨てられる子猫を減らさなくては解決しません。猫は人に依存しなければ生きていけず、そのため

にも私たち人間が適正に管理する必要があります。新たに猫を迎え入れる予定のある方は、ぜひ保健所に収容されている猫たちや飼い主がいなく日々命の崖ぶちにいる野良猫に救いの手を差し伸べてください。



地域猫とは・・・

北海道ではあまりなじみのない地域猫ですが、地域猫とは、『**野良猫の不妊・去勢手術を徹底し、餌の管理・フンの清掃・地域周辺の美化など地域のルールに基づいて、適切に飼育管理された猫。野良猫の数を今以上増やさないで、一代限りの生を全うさせる。周辺住民の認知が得られた猫。**』を言います。野良猫は飼い猫がやむなく野良になった言わば飼い主のいない猫で、問題のそもそもは飼い主に原因があります。苦情の多くは、「庭を荒らす」「庭にフンをされた」「鳴き声がうるさい」「子猫が生まれた」「ゴミを散らかす」など。また、飼い猫の不妊・去勢手術をせずに室外でも飼育した結果、子猫が産まれるなど飼い主の飼育方法も原因となっています。野良猫を世話するには、**餌やりの時間・場所を決める**■清掃をしっかりとる■不妊・去勢手術を徹底するなど地域のルールを決め、世話をする人たちが責任を持って行動することが絶対条件になります。地域猫活動は結果が出るまでに時間がかかり大変なことも多いですが、地域で野良猫の命を大切にしていることを通じて、子どもたちが社会性・地域協力・命の大切さを学び、結果、住みやすい街・地域になっていくのではないのでしょうか。

●しっぽの会から地域猫のご提案●

しっぽの会の趣旨に賛同してくださる、地域のグループに対して、野良猫の避妊・去勢手術費用の一部を援助させていただきます。邪魔だからと排除するのではなく、人と動物がより良く共生できる社会を作るには、地域の住民の方々のご協力が必要です。詳しくはしっぽの会まで、お電話、Eメールでお問い合わせください。